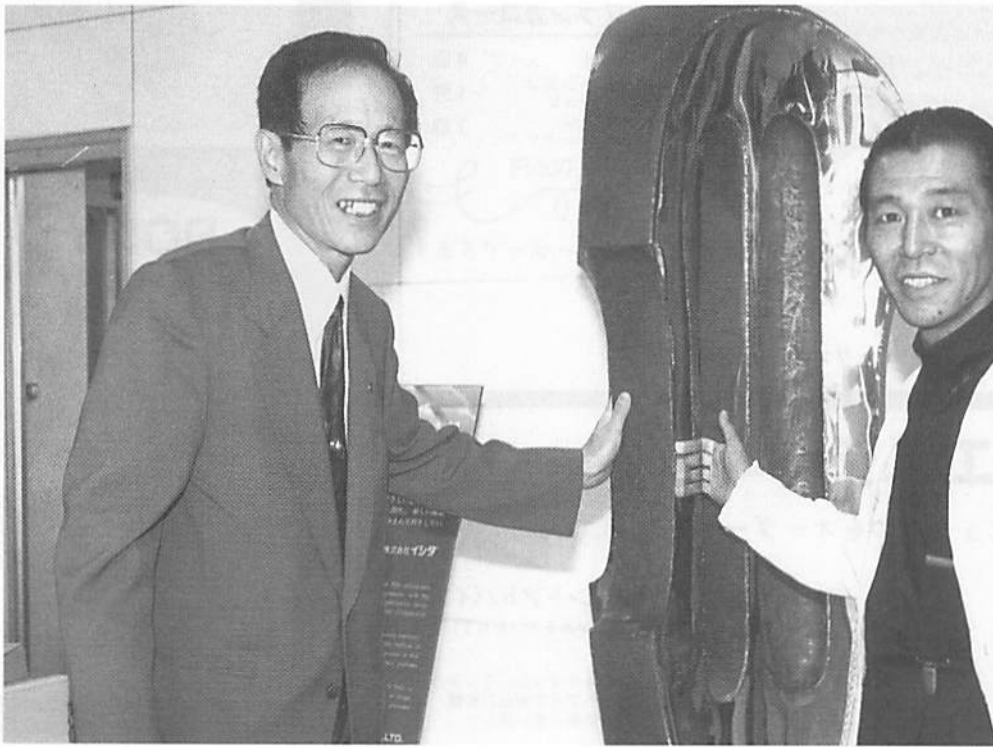


# BY KOUICHIRO GOSHO NAKED EYES.

# 石田隆一

MEASURED

株イシダ・代表取締役●プロフィール 1937年京都市生まれ。60年同志社大学経済学部卒業。卒業試験終了2日後に石田衡機製作所へ入社。危機的な状態にあった会社再建に尽力し、67年12月に社長就任。93年3月には創業100周年を期して、社名を株式会社イシダに変更。



はかりしれない明日のために  
尺度を刻んで邁進する男。

東山丸太町の南西角に、長いあいだ「石田衡機製作所」という大きな看板が立っていた。読めるが書けない漢字のひとつである。正体は「石田のはかり」。その看板が昨年春に外され、シンブルに「株式会社イシダ」と生まれ変わった。明治生まれの祖母

質秤の製造者は、市中引回しのうえ、獄門。

御所 「石田のはかり」と言えば皆さんご存じのように、世界中で信頼されるブランド・ネームですね。今年は101年目の新たなスタートの年に当たるわけですが、遡るとどんな歴史をおもちゃなんでしょうか？

石田 度量衡は国の礎ということで、江戸時代には金・銀・秤は幕府の直轄でした。我田引水のように経済の基本ですから、「厩秤」こしらえし者は、引回しの上獄門」の刑。明治26年に衡器の製作が民間にも許され、曾祖父が免許を取りました。

御所 物事の基準を決める、たいへんなものだったんですね。今でも間違ったものを作ったら責任重大でしょう。

石田 それはもう。ハカリの目盛

たちが「ちぎ」と呼んでいた秤づくりから出発して、世界的なスケール・メーカーへ。その途上で見たものは、何だったのか。雄弁家としても有名な石田社長。そのコツは、むずかしいことをわかりやすく言うことだ、とおっしゃるのだが。

御所 最初の頃はどんなものをつくられてたんですか？

石田 商業用の木製ハカリから始まってはねハカリですね。御所 今や計量はすべてデジタルですが、その間の変化は？

石田 2回、大きな変化がありました。ひとつはエレクトロニクスの発展と歩を一にした、LSIやマイクロチップの軽量化によるデジタル表示。この時はまだスプリングで得た値を電気信号に換算していました。そして二番目は昭和50年代にNASAが開発したロードセルの応用。物体のひずみを電気に変換する、この宇宙工学によって、ハカリが飛躍的に



発展したんです。  
御所 時代の先端をつかむかどうか、が会社の分かれ道だったわけですね。やはり社長がお若かったからでしょうか。  
石田 それは大いにありますね。私が大学を卒業したのは昭和35年。33年にメートル法が施行されたばかりで、世はスーパーマーケットの発展に代表される流通革命の真っ只中でした。う

## 世の中は、適者生存や。逃げたらいかん。

御所 社長になられたのも30歳と、ずいぶんお早いようですが…  
石田 会社がようやく持ち直した昭和40年に祖父が亡くなり、親父がガンで「あと2年」と宣告されました。さすがに、私もヤケになりかけましたけど、「逃げたらいかん」と思ったわけです。「大と異性と責任は、逃



ちの会社は変革期に乗り遅れて切羽詰まった状態で、私は卒業試験が終わると、翌日の日曜を休んだだけで、2月19日から出社です。  
御所 優雅に卒業旅行なんてやってられない。  
石田 ええ。若い者の特権で死に物狂いになりました。あなたの会社は断崖絶壁だ、とコンサルタントに言われショックでした。経営会議事務局長として生産工程の見直しを図り、次は販売がカギだ、というので25歳で営業部長に。この時は日本中を走りまわりましたね。

「逃げたらいかん」と言いますからね(笑)。また、悩み抜いたおかげで基本的な方針が生まれました。どんな時代にあっても、必要な人や企業は生き残るということです。  
御所 ご持論の「適者生存」の法則ですね。  
石田 そうです。ジングスカンが皆殺しをしてのけたといっても、必要な職人や技術者はビックアップして残ってる。恐慌の時にも残る会社は残っている。では、そのためにはどうしたらいいか。全員が心を合わせるための3つの条件を考えました。ひとつは共通の目的をもつこと。「量より質」、ビッグストよりベストの会社を目指そう…と。

御所 今でこそ「量より質」は珍しくありませんが、当時は「大きいことはいいことだ」の時代でしたからね。  
石田 ふたつめに、単に金儲けする集団ではなく企業理念をもつべきだ。これが「三方よし」の精神で、自分も相手も、そして社会も生きるように。最後に、人に品性や人格・識見があるように、社格のいい智徳一体の会社を目指そう、と思いました。  
御所 その三つをベースに社内が一丸となつて、遂には業界のトップに立たれたわけですね。めげられることはありませんでしたか。  
石田 10年一節でやってきて、振り返ってみたら、なんとかここまでできました。団体生活

## 常識のウソにだまされるな。

でも結婚でも、すべてのもくろみは夢に始まり、ロマンで発展し、責任感によって成功する…と言われているんですよ。  
御所 いい言葉ですね。そうすると社員自身も夢をふくらませて、それを実現するためにどうすればいいのかわからないで考えてくられるのがいちゃいちゃいわけですね。  
石田 その通りです。社会主義華やかになりし頃、東欧を旅行したら、最低の生活は保証されているけれど、どこへ行っても銃を持った兵隊が警備していて自由がない。動物

石田 会社でも、自由な社風がいいと、「生き生き伸び伸び」とやらせているんですが、「理想の上司は？」という質問に、ヤクルトの野村監督と答えた若者が多いと聞きショックでした。野球もうまいし、すぐれた人格者ではありませんが、ちょっと小言が多すぎる気がしましたね。  
御所 指示待ち世代にとっては、「なんでも知ってる人」に命令されるのが、うれいんでしょうね。ただ、このごろの不況で数年前とは若い人の目の色がちがってきてる。

石田 そう。不景気も、そういう意味ではいいかもしれません。みんなが真剣に自分の人生に取り組むことで、隠れた力がでてきます。  
御所 自分で身体を張って、なんとか頑張ると奇跡も起こるかもしれません。待っててもなにも来はしないんだ…と。  
石田 暗いところにはへビと幽霊しか出ん、と京都では言いますよね。吉川英治の言葉にも、「人生は過去を振り返ってみると案外他愛のないことの連続にすぎない」というのがあります。人生は山あり谷ありで、その時その時に後で悔いが残らぬ様ベストを尽くす事が

園みたくないもんです。パリへ帰った途端「これが自由や」と口笛が出ました。ところがこちらでは、甘い言葉にのせられてバーへ連れ込まれたらジュース一杯で50ドル取られた苦い経験があります(笑)。資本主義社会は、ある意味では弱肉強食のジャングルかもしれません。サファリパークのような「見えない柵」のある今の日本の社会が理想なのかな、と思いますね。  
御所 お釈迦さまの掌ですね。

大事だと思えます。

御所 京都の若者については、これから何を学ばべきだとお考えですか？

石田 二つありますね。ひとつは、常識や固定観念のウソにだまされるということ。京都といえは観光や学術の都市と言われますが、税収はそれぞれ1割ずつ。工業が27%と比率でいうと日本で3番目ですから、立派な工業都市なんです。しかも、京セラ、ワコール、任天堂、タキイ種苗のように、その業界でNo.1の会社が非常に多い。

御所 斬新な感覚というのは、京都の伝統の核です。その結晶が文化や伝統として受け継がれてきたわけ。

石田 清水の舞台や金閣寺にしたって、当時は奇異な目で見られたでしょうね。あとひとつは、歴史学と心理学を学べということです。京都にはありがたいことに、歴史的に興味を引くことがいっぱいありますからね。

御所 秤をつくっておられるだけに、今日は新しい物差しや、いい秤の扱い方を教えて頂けました。



(御所氏へのメッセージ)

御所光一郎 「クラブフェイス」プロデューサー。

石田隆一氏より

「鋭い感性にバランスの取れた視野。さりげない外見にナイーブな内面。我々の言葉で言うところ、精度のいい人だと思えます。これからの京都のためにもぜひがんばってほしいものです。」